

想像を超える原発周辺の現状

会社員

(埼玉県 28)

先月、東京電力福島第一原発付近の国道6号を通り、宮城県に帰省した。2014年9月に、全線で通行規制が解除された国道だ。テレビやネットを通じて、原発周辺の現況は知っているつもりだった。だが、目に飛び込んできた荒涼たる景色は、想像を超えていた。

津波被害を受けた各地では復興の槌音が響いているのに、事故が起きた原発付近の集落には人の気配がない。そこだけ、東日本大震災から時計の針が進んでいないことを肌で感じた。安定的な電力供給のために、

原発の再稼働はやむを得ないと考えた時期もあった。だが、今も続くこんな光景を目の当たりにして考えが変わった。

福岡高裁宮崎支部は、九州電力川内原発1、2号機が新規規制基準に適合するとした原子力規制委員会の審査に「不合理な点はない」とし、運転差し止めを認めなかった。しかし、私は新規制基準の評価だけでの再稼働は納得できない。放射性廃棄物の最終処分場さえ未定なのだ。原発再稼働の土壌が完全に整備されていない以上、廃炉へかじを切るべきだ。「想定外だった」という言葉は、もう聞きたくない。